

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：7-9月期ユーロ圏GDP速報値

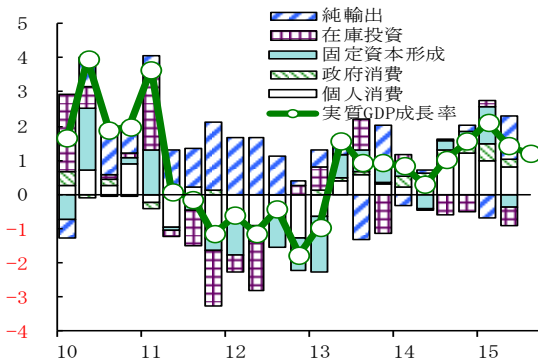
発表日：2015年11月13日(金)

～ドラギ総裁の不安をよそに～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

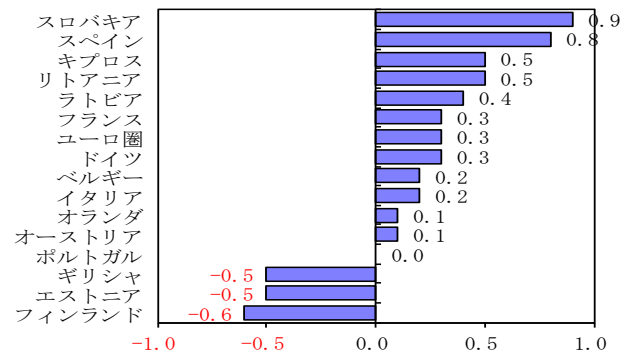
- 7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.3%、同年率+1.2%。前期（同+0.4%、年率+1.4%）から僅かに成長ペースが鈍化したものの、10四半期連続のプラス成長を記録した。国別の内訳は、フランス（同ゼロ%→同+0.3%）で成長が加速したものの、ドイツ（同+0.4%→同+0.3%）、スペイン（同+1.0%→同+0.8%）、イタリア（同+0.3%→同+0.2%）、ポルトガル（同+0.5%→同ゼロ%）で前期より成長が鈍化し、ギリシャ（同+0.4%→同▲0.5%）、フィンランド（同+0.2%→同▲0.6%）、エストニア（同+0.7%→同▲0.5%）がマイナス成長に転落した。
- 需要項目別の内訳は12月8日の改定値で公表される。既報の国別の内訳からは、ドイツで個人消費や政府消費が成長を牽引したが、設備投資が減速したほか、輸入の伸びが輸出を上回り外需が回復の足を引っ張った。フランスでも輸出減と輸入増から外需が大幅なマイナス寄与となったものの、個人消費、政府消費、設備投資、在庫投資など内需項目が回復加速を後押しした。
- 夏場以降に広がった新興国の景気減速への不安は幾分薄らいでいるものの、ドイツの受注統計の冷え込みが続くなど、景気の先行きには引き続き不透明感が燻っている。ただ、米欧金融政策のコントラスト拡大によるユーロ安基調、原油安による企業や家計負担の軽減、雇用・所得環境改善による内需の持ち直し、金融緩和の効果浸透により、景気は腰折れを回避すると予想する。

■ユーロ圏：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：Eurostat

■2015年7-9月期の実質GDP成長率（前期比、%）



出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
13/10-12月期	1.6	0.9	(▲ 0.4)	0.6	0.4	1.9	(▲ 1.1)	1.3	3.5	0.5
14/1-3月期	2.0	0.8	(1.2)	0.4	1.3	1.5	(0.4)	▲ 0.3	2.5	3.6
14/4-6月期	0.8	0.3	(0.2)	0.9	0.7	▲ 2.0	(▲ 0.0)	0.1	4.8	5.1
14/7-9月期	2.2	1.0	(1.0)	2.0	1.0	1.4	(▲ 0.6)	0.0	6.3	7.0
14/10-12月期	2.4	1.6	(1.4)	2.2	0.9	2.4	(▲ 0.5)	0.2	3.7	3.7
15/1-3月期	3.7	2.1	(2.8)	1.9	2.2	5.6	(0.2)	▲ 0.7	4.2	6.3
15/4-6月期	2.8	1.4	(0.1)	1.5	1.0	▲ 1.9	(▲ 0.5)	1.3	6.5	3.9
15/7-9月期	-	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。